

平成 27 年度スーパーサイエンスハイスクール 生徒研究発表会において、 本校代表の「光に対するクズの反応」の研究発表が 奨励賞を受賞しました。

8月5日(水)・6日(木)の2日間、標記の発表会が、大阪市のインテックス大阪を会場に開催されました。この発表会には全国のSSH指定校203校と海外からの招聘校が参加し、それぞれの学校で取り組んでいる『課題研究』の成果を発表します。

本校からは、理数科サイエンスコース3年生の

青木 悠君, 石坂 夏希さん, 佐藤 淳喜君, 田中 直君, 山崎 美優さんの研究, 「光に対するクズの反応」が代表として参加しました。

当日は、平成25年度にSSHに指定された本校を含む全国43校の研究が、その内容によって5つのカテゴリーに分けられ、審査員により審査されました。本校の研究は『生物・植物』分野で、このカテゴリーには本校を含め9つの高校の研究がありました。審査の結果、本校の研究発表は奨励賞を受賞しました。これは、その分野で第2位に評価されたということです。おめでとうございます!!!

5人の声です。

青木 悠 君

私たちは SSH 生徒研究発表会に代表として参加しました。約1年間、メンバーそれぞれが役割を持って頑張ってきた研究の成果をこのような場で発表できたことは本当に嬉しかったです。ポスター発表などでは伝えたいことを的確に簡潔にまとめて話す力が求められました。他の学校を見ると、特に口頭発表を行っていたグループはプレゼンが上手だと感じました。全国の生徒と意見交換できたことはいい経験になりました。

石坂 夏希 さん

昨年と異なる大阪の会場で行われた発表会であり緊張した。しかし私たちは自作の実験装置や自分たちで考えた数値化の方法を用いた、私たちにしかできない研究を行ったという自信のもと、審査員・来場者へ発表した。途中審査員から厳しい言葉もあったが諦めることなく説明を続けた。結果奨励賞で名前を呼ばれたときは驚きで勢いよく立ち上がり、全身に鳥肌が立ったことを覚えている。全国の優秀な高校生と会い、話し、交流したことで研究過程において仮説、実験、考察、さらに仮説、と続けることの重要性を再確認できた。

佐藤 淳喜 君

私たちの班は研究するにあたって、しっかりと役割分担が出来ていたと思う。各々が自分の出来ることをし、フォローし合いながら研究を進められたのでよかった。

私は大阪での発表会に参加することができなかった。それでも、メンバーが臨機応変に対応してくれてありがたかった。このメンバーで研究ができて良かった。

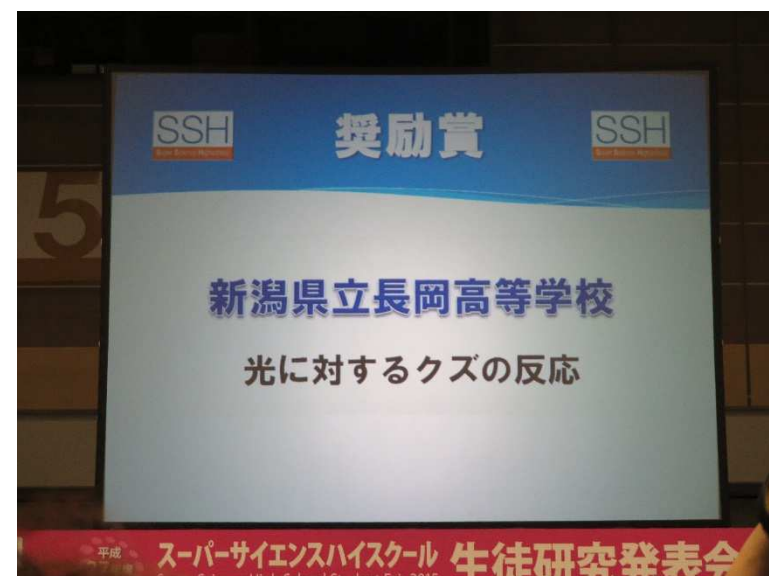
田中 直 君

はじめに SSH 生徒研究発表会で奨励賞を受賞できたことを嬉しく思い、私たちの研究を支えてくださった先生方、何より同じグループのメンバーには本当に感謝しています。

今回の発表会を通じ、研究発表におけるコミュニケーション能力の大切さを強く感じました。ポスターセッションでは相手の反応に応じてより分かりやすい説明が必要でした。そのためには当然、研究の内容に価値がなければならぬし、自分たちの研究に対し理解しておかなければならないと感じました。

山崎 美優 さん

この2日間は臨機応変さと伝えようとする気持ちの大切さを強く感じた。時に自分たちでも予想していなかった質問をされたり、自分の意見を求められたりして、厳しいことを言われたこともあったが、誠意を持って意見を言ったことで相手に理解してもらい褒めて頂いたこともあった。また、他県の班の発表を聞き、実験の結果よりも過程や実験回数、筋の通った考察が大切だと改めて感じた。とても素晴らしい2日間を尊敬するメンバーと経験でき、誇りに思う。



発表は閉会式にて行われました。アナウンスとともに会場のスクリーンに表示されました。



閉会式後に、科学技術振興機構の理事長さんらとともに記念撮影を行いました。



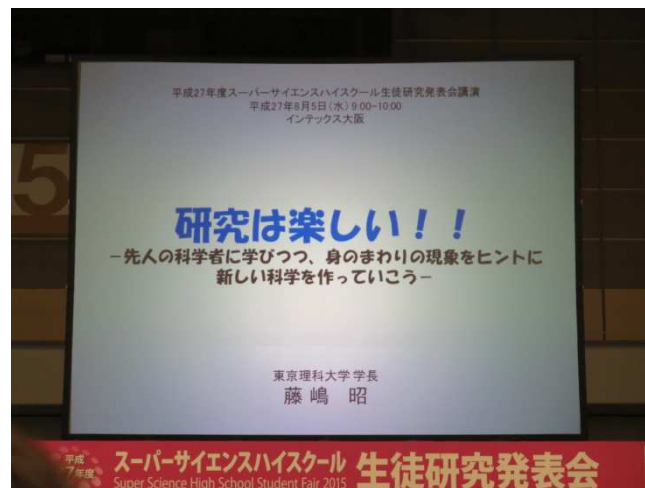
発表会の様子を紹介します。

会場のインテックス大阪です。



開会式。

講演 東京理科大学学長 藤嶋 昭 先生



もうすぐ始まります。打合せ中。

説明しています。



質問にも的確に答えています。



説明しています。



アピールタイムでは、英語で発表しました。



会場のようなです。

海外の高校生も招かれています。

